

防災学校 9月3日

本校は小学校と連携し、小中9年間を見通した防災計画を策定しています。9月の防災月間に合わせ、各学年で余市町防災係のご協力で、次のような学習に取り組みました。

1年生は余市町のハザードマップを活用し「マイ・タイムライン（避難行動計画）」を班ごとに作成し、災害時に自分や家族がどのように行動すればよいかを考えました。2年生は「避難所運営ゲーム 北海道版D○はぐ」に挑戦しました。実際の避難所で起こり得る課題に向き合いながら、北海道ならではの冬の寒さや交通事情にも配慮し、地域に根ざした共助のあり方を学びました。3年生は体育館に実際の避難所を設置しました。通路や入口の向きにも工夫を凝らし、段ボールベッドや簡易トイレ、ファミリールームを配置しました。「どうしたら安心、快適に過ごせるかな」と、利用する人の立場に立って考える姿が見られました。



安心して過ごせる避難所を目指してみんなで協力！講師の方に手際の良さを評価していただきました。



ハザードマップを見ながら最適な避難経路を考える1年生。



避難してきた人の状況を考え、適切な対応を考える2年生。

これらの学習を通して、生徒たちは「自分や家族を守る自助」「地域で助け合う共助」「行政による公助」のそれぞれの役割の大切さを学びました。防災は特別な時だけでなく、日常の中で意識し備えていくことが大切であることを実感する機会となりました。

余市の遺跡について考えました 9月4日

北海道埋蔵文化財センターや余市町水産博物館のご協力を得て、1年生が余市町にある遺跡の立地や大谷地貝塚、余市式土器について学びました。

授業では、どのような場所に遺跡が多くあるのかを考えるため、トレーシングペーパーに現在の海岸線や川、遺跡の場所をなぞり、その上に昔の地図を重ねて調べました。「ここって昔は川の近くだったんだ！」といった声も聞かれ、地形と遺跡の関係について自分なりに考える姿が見られました。

また、実際に「余市式土器」に触れるという貴重な体験もでき、学びをより身近に感じることができました。



土器の感触を確かめながら学ぶ貴重な体験



とても丁寧に海岸線をなぞる1年生

人権教室 1年生 9月22日 2年生 9月29日

8月の3年生に続き、1・2年生も人権擁護委員の方をお迎えし、人権について学びました。

1年生は「人権を守るってどんなこと？」をテーマに講義を受けました。人権作文をもとにしたアニメ作品を視聴し、友だちや身近な出来事の中にも人権が関わっていることに気づくことができました。

2年生は「ダイヤモンドランキング（意見やアイデアを順位づけして並べる活動）」に挑戦しました。9つの事柄をグループでランキングしながら話し合い、「人によって大切にしていることが違うんだね」と互いの価値観を認め合う姿が見られました。

各学年がそれぞれの成長段階に応じて学びを深め、人権をより身近に感じる機会となっています。

生徒たちは活動を通して、「自分を大切にすること」と「相手を大切にすること」の両方が人権を守ることに繋がると感じ取っていました。これからの学校生活の中でも、生かしていける学びになったと思います。



講師は卒業生 SDGs学習 9月

本校を卒業した高校生を講師に迎え、SDGsについて学ぶ学習を行いました。自身がデンマークを訪れた経験をもとに、現地で感じたことや学んだことなどを紹介してくれました。

授業では、SDGsに関するカルタや、課題解決の方法をみんなで考える活動に取り組みました。「どうやったら問題を解決できるだろう？」と、グループで話し合いながら意見を出し合う姿が見られました。

高校生の生の体験を通して、子どもたちはSDGsが遠い話ではなく、自分たちの生活や未来に関わる大切なテーマであることを学びました。



講師のアドバイスを受けながら課題解決の方法を話し合う2年生